

平成22年度 第1回安曇野市介護保険等運営協議会

- 1 審議会名 平成22年度第1回安曇野市介護保険等運営協議会
- 2 日 時 平成22年 6月25日 午後1時 から午後2時38分まで
- 3 会 場 穂高健康支援センター 問診室
- 4 出席者 松井委員、松嶋委員、石田委員、須澤委員、伊佐津委員、大神委員、前島委員
丸山好夫委員、丸山三恵子委員、有賀委員、高山委員、細川委員
- 5 市側出席者 務台健康福祉部長、小川高齢者介護課長、保高介護保険係長、曾根原高齢者福祉係
長、宮下介護予防係長、西澤主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成22年 6月 28日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

進 行 (小川高齢者介護課長)

- (1) 開 会 (小川高齢者介護課長)
- (2) あいさつ (務台健康福祉部長)
- (3) 委嘱書交付 (務台健康福祉部長より各委員へ委嘱書の交付)
- (4) 自己紹介 (各委員、務台健康福祉部長、事務局の順で行なわれた)
- (5) 会長・副会長選出

小川課長より、安曇野市介護保険等運営協議会設置要綱第5条の規定により、会長及び副会長は委員の中での互選による選任であるとの説明を行ない選出方法について委員に確認をしたところ、有賀委員より事務局案があればとの発言があった。

事務局より、会長に須澤委員、副会長に丸山好夫委員を提案。全委員一致で選任された。

就任後 会長、副会長より御挨拶をいただいた。

- (6) 会議事項 (設置要綱第6条により須澤会長が議長となった)

①安曇野市介護保険等運営協議会について

・協議会の役割について

質疑1 なし

・安曇野市老人福祉計画及び第4期介護保険事業計画について

質疑2 協議内容に記載

・安曇野市老人福祉計画及び第5期介護保険事業計画の策定の日程及び22年度の日程について

質疑3 なし

②その他 (議題なし)

- (7) 閉 会 (丸山協議会副会長)

2 協議内容

・安曇野市介護保険等運営協議会のあらし、また現在実施されている安曇野市老人福祉計画及び第4期介護保険事業計画について次ぎのとおり事務局より説明が委員に行なわれた

○協議会の役割について

○安曇野市老人福祉計画及び第4期介護保険事業計画について

総 論、高齢者福祉事業、地域支援事業、介護保険事業について

○安曇野市老人福祉計画及び第5期介護保険事業計画の策定の日程及び22年度の日程について

<協議にあたり次の質疑があった。>

松井委員

地域包括の相談事業として成年後見人制度をおこなっているが、介護保険なので高齢者だけが対象か、知的障害などの3障害についてはどのような扱いになっているのか。

宮下介護予防係長

地域包括では高齢者しか行なっていないが、障害福祉など含め健康福祉部全体で相談への対応を行なっている。成年後見や権利擁護といった制度の性質上、市職員だけでは解決がつかない内容であるため、状況を把握

協 議 事 項 等

し、御家族がいる方は御家族を適切な場所へ案内をする支援をしている。御家族がいない方は、担当職員である社会福祉士等が司法書士や家庭裁判所の手続きなど支援を行い軌道に乗るように対応をおこなっている。

有賀委員

地域包括の総合相談事業において、予防プランや特定高齢者、権利擁護、介護相談など軒並み延びているが、ケアマネジャーの支援数が平成18年度から極端に減少しているのはなぜか。

宮下介護予防係長

特定高齢者の件数が伸びたのは、国の検診の基準の方法が変わったからであると思われる。ケアマネジャーの支援については、ケアマネジャー部会（安曇野市介護保険事業者連絡会）で、いろいろな質問、相談などが出されそこでの対応しているために（この分はカウントされていない）、個別の件数が減ったのではないかと思われる。いずれにしても高齢者は増加しているためケアマネに対する支援は重要な位置を占める内容であると考えている。

松井委員

有賀委員の質問の中にあつた成年後見の数字は、窓口相談にきた数字か。

宮下介護予防係長

窓口だけではない。

松井委員

市町村長申し立ては安曇野市にはあるか、また予算は取っているか、それはどれぐらいか。

曾根原高齢者福祉係長

地域支援事業の任意事業で予算を取り行なっている。実績として去年は1件あつたが、ない年もある。

松井委員

市ではやってくれないといった考え方が多い。千葉県の野田市では、市町村長申し立てと、報酬が取れない場合行政で負担することが条例で定められている。いっぺんあためてみて、安曇野市でも検討してはどうか。

曾根原高齢者福祉係長

安曇野市でも、条例ではないが要綱を設けて、後見支援の金額も定めて支援を行なっている。

石田委員

高齢者の結核が流行しており、身体状況が入院治療により重篤化する傾向がある。早期発見をするために施設入所時や、市としての検診の中でレントゲン撮影などの対応を、予防の担当者とも連携を図ってお願いをしたい。また、介護事業者さんにも、研修会など積極的にご参加いただき結核の早期発見のスキルアップをしてもらいたい。また職員の健康診断も徹底してもらいたい。

須澤会長

入所時に、レントゲンをとるようになっていたのでは？

高山委員

そのようになってはいるが、本人の状況で全てを撮るわけではない。

須澤会長

施設入所時は、なるべくレントゲンを撮る方が良い。

石田委員

長期利用の方は、なるべくとってもらうようにしていただきたい。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。